バセドウ病 01

バセドウ病について

甲状腺ホルモンが出すぎる病気です。治療法は3つあり、多くはまず飲み薬から始めます。

Q どんな病気ですか

のどぼとけの下にある甲状腺から、甲状腺ホルモンが出すぎる病気です。

甲状腺ホルモンは全身の代謝を調節しています。増えすぎると体が働きづめの状態になり、次のような変化が出ます。

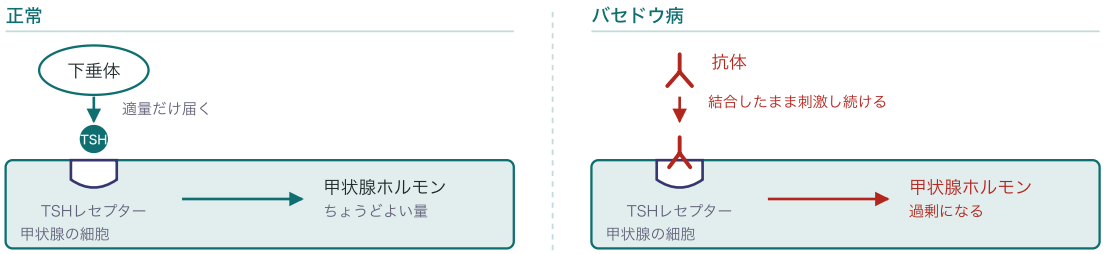
脈が速い　体重が減る　手が震える　汗が増える　暑がりになる　疲れやすい

首の腫れや、眼が出る・まぶたが上がるといった変化を伴うこともあります。

Q なぜ起こるのですか

甲状腺の表面には、脳からの指令（TSH）を受け取る**TSH受容体**があります。

バセドウ病では、本来は細菌やウイルスと戦うはずの免疫が誤って自分の TSH 受容体に対する抗体（TRAb）を作ってしまいます。この抗体が受容体を**刺激し続ける**ため、指令がないのにホルモンが作られ続けます。



TSHは必要な量だけ届きますが、抗体は結合したままなので刺激が止まりません。

Q どんな治療がありますか

抗体そのものを消す方法はまだありません。**ホルモンを作りすぎないようにする**のが治療の目的です。

飲み薬	ホルモンの合成を抑えます。多くはここから始めます
アイソトープ治療	放射性ヨウ素のカプセルを飲み、甲状腺を小さくします
手術	甲状腺を取り除きます

体質・年齢・甲状腺の大きさ・妊娠の希望などをふまえて、一緒に選びます。

Q どのくらいで良くなりますか

多くの場合は 1〜2 か月でホルモンの値が落ち着き、体調も戻ってきます。値が戻っても**自己判断で中止しない**でください。ぶり返すことがあります。

その後は量を減らしていきます。数年かけて薬を中止できる方がいる一方、**なかなか減らせない方や再発する方もいます**。その場合はアイソトープ治療や手術への変更を相談します。

出典：日本甲状腺学会 甲状腺疾患診断ガイドライン2024／バセドウ病治療ガイドライン2019（南江堂）

診療目的での複製は自由に行えます。